

平成20年度

**総合的な放課後対策推進の
ための調査研究
報告書**

**放課後活動支援モデル事業
「日本各地の地域特性を活かした
音楽学習による放課後活動プログラム」**

財団法人音楽文化創造

目次

1.はじめに	1
2.事業の概要	2
(1) 目的	2
(2) 事業の背景・必要性・有効性	2
(3) 事業の実施内容・方法	2
(4) 事業の目標とする効果・成果	3
(5) 事業の実施スケジュール	4
3.各モデル事業の概要と調査研究の報告	6
(1) こがし桜スクール(栃木県宇都宮市)	6
(2) 市原子ども音楽セミナー(千葉県市原市)	10
(3) 箏で和くわくいいきき体験(埼玉県熊谷市)	14
(4) おんがくっ子平塚(神奈川県平塚市)	18
(5) みなみふれあいキッズ(新潟県新潟市)	22
(6) 三好子ども音楽セミナー(愛知県三好町)	26
(7) なにわおんがくっ子塾(大阪府大阪市)	30
(8) 京都おんがくっ子塾(京都府京都市)	35
(9) 西宮市子ども音楽セミナー(兵庫県西宮市)	39
4.総評	44
調査委員一覧	44

1. はじめに

本報告書は、財団法人音楽文化創造が、文部科学省による平成20年度放課後活動支援モデル事業として実施した9つのモデル事業の概要と、本財団調査委員会による、事業の効果に関する調査結果を報告したものである。

これら9つのモデル事業は、全国の9箇所（栃木県宇都宮市、千葉県市原市、埼玉県熊谷市、神奈川県平塚市、新潟県新潟市、愛知県三好町、大阪市東成区、京都府京都市、兵庫県西宮市）で実施され、実施責任者全員が、本財団が主催する「生涯学習音楽指導員養成講座」において、最上級である「A級指導員」の資格を有している。この意味では、平成19年度に継続して行われた今年度の放課後活動支援モデル事業の実施を通して、生涯学習音楽指導員が全国レベルで活躍し、かつ地域社会に根付いた音楽文化活動の中心的な担い手になっていることは明らかである。

また本報告書の活動例が示すように、放課後活動を支援するためには、生涯学習音楽指導員のような地域に根ざした専門的な活動家が必要であり、音楽をひとつの契機として、演劇、民俗芸能などの分野との連携を促すことが大切である。

今後、放課後活動支援が施策として全国各地で実施されるにあたっては、生涯学習音楽指導員が積極的に、かつ有効的に活動できるような環境整備が、国、都道府県、地区町村の行政に望まれる。

平成20年度放課後活動支援モデル事業調査委員長
久保田慶一

事業実施一覧

	プログラム名	実施地域	実施責任者	調査者
1	こがし桜スクール	栃木県宇都宮市	和久 文子	久保田 慶一(東京学芸大学教授)
2	市原子ども音楽セミナー	千葉県市原市	勝又 訓子	八木 正一(埼玉大学教授)
3	箏で和くわくいきいき体験	埼玉県熊谷市	齊藤 才子	立田 慶裕(国立教育政策研究所 総括研究官)
4	おんがくっ子平塚	神奈川県平塚市	大屋 啓子	澤崎 眞彦(東京学芸大学教授)
5	みなみふれあいキッズ	新潟県新潟市	小林 和子	澤崎 眞彦(東京学芸大学教授)
6	三好子ども音楽セミナー	愛知県三好町	新谷 啓子	久保田 慶一(東京学芸大学教授)
7	なにわおんがくっ子塾	大阪市東成区	乗友 美智子	今西 幸蔵(天理大学教授)
8	京都おんがくっ子塾	京都府京都市	小島 律子	立田 慶裕(国立教育政策研究所 総括研究官)
9	西宮市子ども音楽セミナー	兵庫県西宮市	岩崎 久仁子	今西 幸蔵(天理大学教授)

2. 事業の概要

(1) 目的

「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を創り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。

(2) 事業の背景・必要性・有効性

① 背景

「いじめ」をはじめとする、様々な社会問題の中で暮らす子どもたちの健全な心身の育成はますます重要な課題となってきている。このような課題に対して、国としても様々な対策を講じようとしているが、これらの課題を克服する一つの方途として、音楽は、子どもたちの心の豊かさを育み、多くの人と共に生きる協調性を養う教育的意義を持つ。都市部や農村部における子供の通学環境を踏まえながら、心の豊かさや協調性を育成するには、とりわけ音楽を介した学びや交流活動が効果的である。また、日本の各地域では、少子高齢化、国際化、地域間格差の増大など大きな問題を抱えつつある。

② 必要性

こうした社会状況の中で、日本各地の音楽文化を活かした学習プログラム「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」を提供する本事業は、各地域の自然、産業、文化の特性や少子高齢化・国際化といった人口特性を音楽と効果的に結びつけ、子どもたちの心の豊かさや協調性を育てようとするだけでなく、子どもたちを支える地域活動の活性化をもたらそうとするものであり、社会の多様な必要性に応える事業である。

③ 有効性

当財団では、資格認定された「生涯学習音楽指導員」により、「音楽で心の居場所づくり」をテーマに、子どもたちの心の豊かさを育み、多くの人と共に生きる協調性を養うことを目的とした「地域子ども教室推進事業」を平成17・18年の2年間わたり全国77箇所で開催した。さらに、平成19年度には、「放課後活動支援モデル事業」を受託、全国8地区において、「放課後の効果的な活動プログラム」をテーマに実施し、その実績は教育関係者、保護者から高い評価を得ると共に、実施にあたっての解決すべき問題を明らかにし、将来への展望を示した。

この3年間の成果と蓄積されたノウハウを基盤に、今回新たに、日ごろ子どもたちが学校では体験できないようなユニークで先進的なプログラムとして、今年度は、地域特性を活かした音楽学習プログラムの提供により、より効果的な「体験の場・交流の場」を創り出すモデル事業を企画し、実施する。

(3) 事業の実施内容・方法

① 事業の実施内容

- ・事業の位置づけとしては、「放課後子どもプラン」の基本的な考え方の中にある、様々な活動機会の提供の一環として、「文化活動、及び地域住民との交流活動の機会の提供を推進すること」に位置づけられる。
- ・全国計8箇所で開催する。今回は1箇所につき5～6回の音楽プログラム(1回2時間)を実施する。

② 具体的内容

地域特性と地域の音楽文化を活かした放課後音楽学習プログラムとして、都市や農村部における子どもの通学環境を踏まえながら、以下の2つのプログラムを計画し、各地域の指導員の協力を得て、実施する。具体的な内容として、子どもたちがはじめて体験するような斬新な手法や珍しい楽器を用いて行うが、①本物の音楽、楽器を鑑賞し自ら体験する。②色々なジャンルの音楽を学ぶ。③日本の伝統音楽を体験し、その良さを学ぶ。④アンサンブルする楽しさ(協調性)を学ぶ、などの要素を盛り込む。

(i) 地域の文化、産業、環境を活かした学習事業

- ・地域の自然環境と音楽を結ぶ学習
- ・伝統行事や祭りを活性化する学習
- ・子守歌や昔話など地域の民俗伝承を活用する学習
- ・地域の伝統産業を活かした学習
- ・地域固有のスポーツイベントと連携した学習

(ii) 地域の人口特性を活かした学習事業

- ・大学音楽学科との連携学習
- ・地域の大学生が放課後プランに参加できる学習
- ・障害児たちの居場所づくりの学習
- ・在日外国人の子どもたちや中国帰国者家族との交流学习
- ・増加する団塊世代を音楽指導員としての活用

③ 地方公共団体との連携・協力

平成20年度以降、当モデル事業を継続的に実施できる地方公共団体(教育委員会)と連携して実施する。実施地域の教育委員会には事業の趣旨、目的を充分ご理解いただいたうえで、後援名義使用、会場となる学校・公共施設の提供、広報誌への掲載等のご協力をお願いします。また、実施に当たっては事業内容をご覧いただき、事業についての助言、提言をいただく。さらに、地域の文化団体、PTA等にも協力、連携、参加を呼びかけ事業に広がりを持たせて行きたい。

④ 効果性の根拠

指導に当たる生涯学習音楽指導員は、経験豊富な音楽指導者であると共に、社会教育についての知識、経験も豊富である。音楽療法の資格を有する者も数多い。さらに、そのジャンルも邦楽から洋楽と多岐にわたり、子どもたちがさまざまな音楽体験をすることができるという、生涯学習音楽指導員の特長を活かした指導内容である。

(4) 事業の目標とする効果・成果

① 求められる成果・効果

- (i) 地域特有の産業や文化、歴史等に音楽を通じて親しみ、地域を愛する心を育む。
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽の素晴らしさを学ぶ。
- (iii) 合奏、合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育む。

- (iv) 基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ぶ。
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加による異世代間交流を体験する。
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通じて豊かな心を育む学習機会を提供する

② 成果・効果の検証方法

- (i) 子どもの保護者、安全管理員、先生・施設の管理者に対する聞き取り、及びアンケート調査
- (ii) 子どもの感想文

上記のデータに基づき、後述の「事業推進委員会」において検証作業を行い、研究報告書としてまとめる。

(5) 事業の実施スケジュール

実施時期	実施内容
7月	・生涯学習音楽指導員研究会ネットワーク(全国31都道府県で活動中)に事業の告知。
8月	・各ネットワークから提出されたモデル事業実施地域、事業計画の検討、決定。
9月	・モデル事業開始。 全国9事業。
2月	・モデル事業終了。 ・検証作業及び報告書の作成。

(6) 事業の実施体制

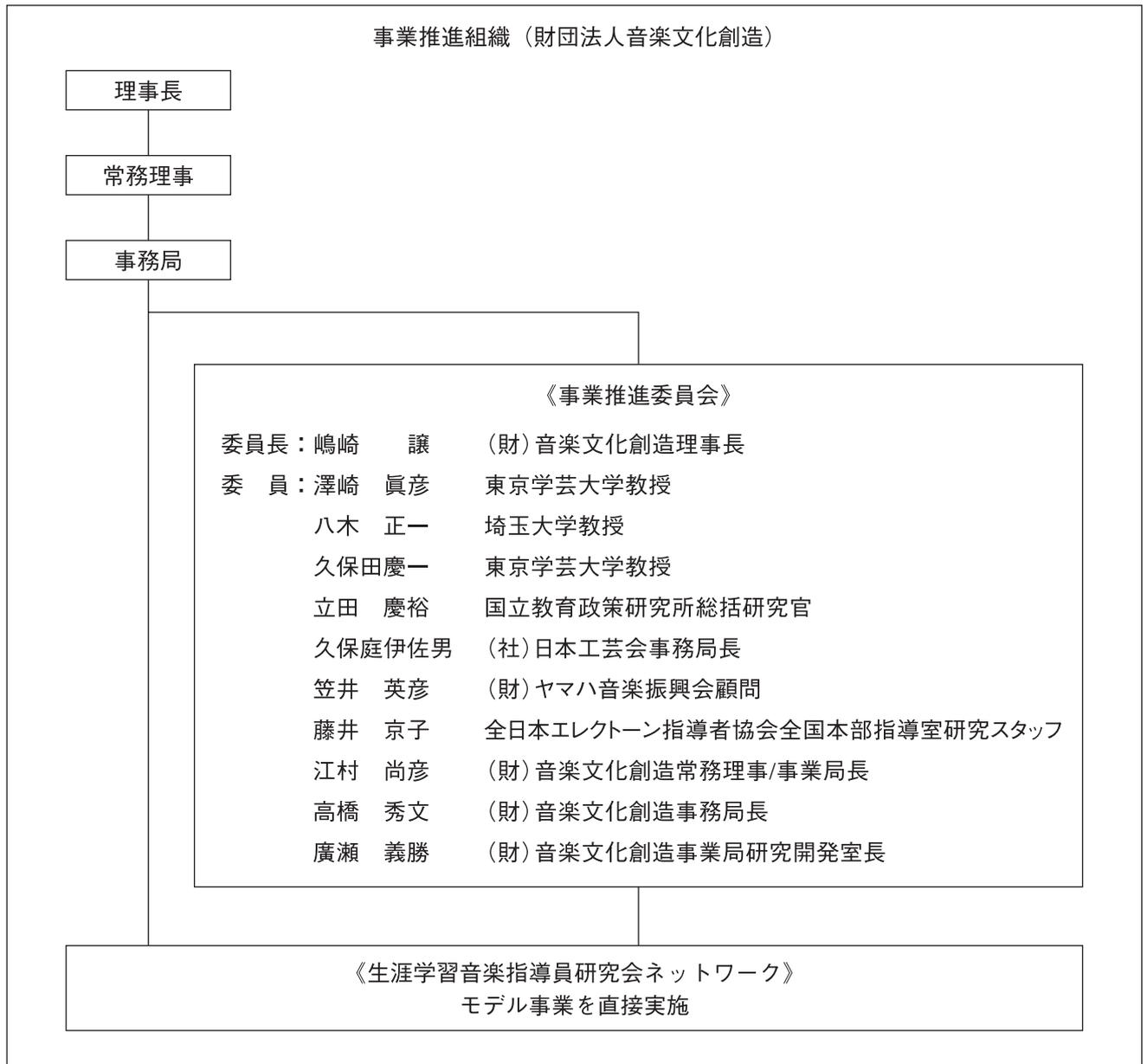
① 団体の構成

氏名	職名	当事業における担当内容
嶋崎 讓	理事長	事業統括
久保庭伊佐男	常務理事	事業統括補佐
江村 尚彦	常務理事・事業局長	事業統括補佐
高橋 秀文	事務局長	事業運営

② 事務担当者

氏名	所属・役職	連絡先
高橋 秀文	事務局長	住所:東京都千代田区外神田 2-18-21 電話:03-5256-2766 FAX:03-5256-2767 E-mail:bwa20776@nifty.com

③ 事業実施のための組織



3. 各モデル事業の概要と調査研究の報告

3-1 こがし桜スクール(栃木県宇都宮市)

実施責任者:和久文子

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	宇都宮市立城山西小学校					
教室名	こがし桜スクール					
実施場所	宇都宮市立城山西小学校					
実施回数	6回					
講師等	講師数	4人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	4人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	1~6年生	幼児参加	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	子どもの数	83人
参加者の募集方法	学校の全面的協力のもと、校内募集					
主な活動内容 (実施回毎に)	第1回	箏演奏指導 音作り	3、4、5、6年生全員に箏の演奏指導。曲は劇中で演奏する「校歌」、「ふるさと」。			
	第2回	合奏指導 演劇指導	脚本が早く仕上がったので、箏演奏者と演劇出演者に分かれての指導を行う。			
	第3回	合奏・演劇 合同練習	箏での効果音の出し方や、演劇の間合いなどを確認。総合練習。			
	第4回	音楽と演劇 練習Ⅰ	音楽と演劇に分かれて、前回の練習の問題点、改善点を練習する。(暗譜を仕上げる。)			
	第5回	音楽と演劇 練習Ⅱ	合同で更に細かい部分の完成度を高める。			
	第6回	音楽と演劇 練習Ⅲ	1、2年生の合唱も交え、箏、キーボードの音楽と演劇とのコラボレーション。			
計画した活動内容の 実施結果	【予定どおり実施できた点とその要因】 音楽を担当する子供達が、楽しみながら効果音の工夫や曲を全部暗譜できた。演劇の子供達も学校、保護者の協力も手伝い、大道具や照明作りからせりふ等、早い出来上がりであった。脚本、音楽作りが早く出来たこと、学校が全面協力してくれたこと。					
活動プロセスでの 工夫・苦勞	【工夫した点】 演劇希望出演者以外は、全員音楽担当で、箏を演奏。楽しみながら演奏させるために、効果音を工夫。輪連、トレモロ、打ち爪、裏連、流し爪、グリッサンド、バルトーク、ピチカート等、色々な奏法を入れる。スティックも使用。こと柱を両手に持ち、リズム打ちをする。 【苦勞した点】 演奏曲ごとの調弦変えや、劇中でのこと柱の転調が多いため、低学年も全員、静かに倒さないよう動かす練習に時間をかける。					

<p>目ざす効果・成果が得られたか</p>	<p>【評価できる効果・成果】 皆で作上げる喜び、達成感があった。演劇出演者は、生き生きとはっきり話すこと、音楽演奏者は、劇をより効果的にするため、様々な演奏工夫や、終了まで正座をし、また雑音を立てない配慮を全員・特に低学年の子供達も自覚と責任をもって行うことができた。先生方の参加も児童の励みとなった。</p>
<p>来年度以降の取り組みについての課題</p>	<p>【内容・運営面から】 このモデル事業の活動を人前で発表させるためには、6回という回数では無理があった。学校の先生方、保護者の協力は大きかった。 【市区町村との連携の観点から】 特に問題なし。</p>



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
<p>i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>子供達の心にいつまでも残る「ふるさと」をテーマに、地域に多数残っている史跡や民話を総合的な学習の時間に調べ、放課後活動に箏と演劇のコラボレーションで作上げる。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>プロの指導者による基礎的練習から始め、曲中に400年前の奏法を教えることにより歴史と伝統を知り、またそれらを、低学年生も楽しめる様工夫。 例：流し爪、グリッサンド、バルトーク、スリ爪、棒を使用し無調音にはさみこむ、打ち爪、左手でたたく</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>効果音は異学年合同で、一面につき二人一組で、お互い協同作業で演奏する場面を設けている。箏担当者は劇の人に気遣い、ノイズがでない様心がける。こと柱を動かす転調やその動きもじゃまにならないよう神経を使い、静かにかつ柱倒しが無い様、全員最善の気遣いをしていた。演奏も呼吸合わせをしっかりとっていた。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>

iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	始めと終わりは、必ず座って挨拶、そしてそばにいて下さる先生方にも挨拶。感謝の気持ちを持ち、元気に明るく「ありがとう」が言えることを心がけていた。また、高学年生をお手本とし、教えてくれた高学年のお友達にも挨拶をし、返礼する。なるべく子供達自ら考えて挨拶が言えるようにした。	目的は「かなり達成された」
v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	音楽の中に、それぞれの持ち場をはっきり組み入れた。 例：かけ声のかけあいを入れ、だんだん早くしていくが、子供、そして大人がそれぞれ負けないよう、遅れないよう、お互いの心を合わせる。これは大人も子供も十分楽しんでた。	目的は「かなり達成された」
vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	通学に足した題材、身近な地域の美しさ、そしてものを大切にする感謝の心を育てるため、テーマ設定に熟慮した。そして、学校の先生方、地域の人達との連携による協同作業で、作品を作り上げることに工夫した。結果、子供達が演奏しやすい様に、地域の人々が箏の立奏台を十数台作ってくれたことは、子供達の心に大きな喜びと感謝の心が更に膨らんだ。	目的は「かなり達成された」

② 調査報告

報告者：久保田慶一

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】かなり達成された

(vii) 総評	<p>全校生徒80名あまりの小さな小学校で、全校生徒が「こがし桜」の劇と演奏に参加していた。7名の6年生が下級生の面倒をよく見ていた。</p> <p>こがし桜という、地元には伝わる大日如来伝説をもとにして、ものを大切にする事の大切さを教える劇であり、地域の歴史や文化を活用していた。演奏は箏と和太鼓が参加し、校歌の演奏、唱歌「ふるさと」、「ソーラン節」の演奏のほか、箏は演劇の効果音楽器としても利用されており、子供たちが楽器の多様な奏法や音の種類を学んだようであった。</p> <p>この取り組みは地元で素材となる伝説があることに恵まれた面もあるが、何より、生涯音楽指導員と学校教員、さらに保護者の連携がきわめてうまく機能しており、他地域のモデルとなる取り組みであるといえる。</p>
----------	--

③ 保護者、教員等からの感想や意見(5名)

- (i) モデル事業の継続については、5名が「とてもそう思う」で、全員が継続を希望した。
- (ii) モデル事業に関する自由記述より
 - ・「本当にいろいろな事をやっていて満足しているので、(他に実施してほしい事業は) 思いつきません。」
 - ・「先生の素敵な音、自分でだす音、友達がだす音。とてもよい事だと思います。耳、目、体で感じられる事が出来てありがたいです。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見(7名)

- (i) 「楽しかったですか」という質問には、6名が「とても楽しかった」、1名が「楽しかった」と回答している。
- (ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、3名が「とてもやってみたい」、3名が「やってみたい」と回答している。
- (iii) 自由記述より
 - ・「放課後友達を遊べるのでとても楽しい。家に帰ってもできないことも桜スクールでできるので、とても良いと思う。」(小6)
 - ・「いつも楽しいです。」(小5)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	市原市教育委員会					
教室名	市原子ども音楽セミナー					
実施場所	市原市三和コミュニティーセンター					
実施回数	6回					
講師等	講師数	3人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	2人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	1~6年生	幼児参加	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	子どもの数	45人
参加者の募集方法	市原市内の小学校を通してチラシを個人配布した					
主な活動内容 (実施回毎に)	<p>9月21日：民謡協会の方から「養老川舟歌」を習う。次回までに、指導者は台本と歌の楽譜を作る。</p> <p>10月19日：ミュージカルチームとアンサンブルチームに分かれて、「養老川舟歌」を練習する。</p> <p>11月16日：歌練習、振り付け、発生・発語、割稽古。</p> <p>12月21日：台本にそっての練習。</p> <p>1月18日：本番キャストの決定、立ち稽古。</p> <p>2月15日：本番用台本にて、通し稽古。</p>					
計画した活動内容の 実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】</p> <p>実際に市原市民謡協会の方の協力が得られ、本物の「養老川舟歌」を聴くことができた。</p> <p>【予定どおり実施できなかった点とその要因】</p> <p>インフルエンザ流行と重なり、毎回欠席者があって、キャストの決定が予定どおり行かなかった。</p>					
活動プロセスでの 工夫・苦労	<p>【工夫した点】</p> <p>実施回数の少ない中でミュージカルを仕上げることを念頭に、どのキャストにも複数配置し本番直前まで本番キャストを決めなかった。</p> <p>【苦労した点】</p> <p>回を追うごとに、参加者の成長がさまざま表れて、キャストの決定がむずかしかった。予定していた参加者が、欠席したり、インフルエンザが流行したため最後まで全員参加で実施できなかった。</p>					
目ざす効果・成果が 得られたか	<p>【評価できる効果・成果】</p> <p>2月22日、市原市民会館大ホールにて開催された、第3回おんがくこフェスティバル・千葉に参加し、養老川をメインテーマにしたミュージカル「いのちのふしぎ」にまとめて、発表した。</p> <p>マスターできた3人が、民謡協会主催の「いちばら民謡大会」に招待演奏を依頼された(学校行事と重なり実現は出来なかった)</p> <p>【得られなかった効果・成果】</p> <p>せっかく本物の「養老川舟歌」を習いながら、全員が覚えらるるまでに至らなかった。当初、演奏も子供たちで考えていたが、節回しが難しく、実現できなかった</p>					

来年度以降の
取り組みについての課題

【内容・運営面から】

今年度の経験をもちに、さらに拡大実施できるよう取り組んでいきたいと、考えている。課題は経費の捻出、（市の指導では、受益者負担で、ということであった）

【市区町村との連携の観点から】

今年度同様に、市原市と市原市教育委員会の講座実施に対して名義後援は得られる予定である。実施会場であるコミュニティー・センターは、会場の年間予約や備品の使用、チラシ配布などについて協力の協力を得ている



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	開催会場の近くを流れる養老川流域の各所に伝承されている「養老川舟歌」を口伝している民謡協会の方を特別講師にお招きして、歌詞の内容や、この歌の背景などを解説してもらう事によって、地元の文化や歴史を身近に感じることを通して、地域に対する意識と愛着に気づく。	目的は「ほぼ達成された」
ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	市原市内も数少ない「養老川舟歌」の伝承者から直接、本物を聴いたり、質疑応答の時間を設け、直接お話を聞いた。	目的は「かなり達成された」
iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	・ミュージカルのストーリーをみんなで考えた。 ・物語の中で、4～8人のグループを作り、各々で振りを考えたり、役割分担をして、仲間意識を育めるよう指導した ・全員で一つの作品を作り上げる過程を通して、友達関係、仲間意識、協調性すべての重要性を強く指導した	目的は「かなり達成された」
iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	はじめの挨拶、終わりの挨拶を、講師の方から積極的に声かけをした	目的は「ほぼ達成された」
v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	・民謡協会の方から、直接「養老川舟歌」を習い、話し合いの時間もあった。 ・開催途中の11月2日に、実施会場である、三和コミュニティー・センターのお祭りがあり、参加出演し、地元の大人と交流した	目的は「ほぼ達成された」

vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地に伝承されている民謡を教材に使った ・ 通学環境にある川を歌った歌を使った 	目的は「かなり達成された」
---	---	---------------

② 調査報告

報告者:八木正一

観 点	コ メ ン ト	評 価
(i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。	地域の民謡「養老川舟歌」を中心にして、それをミュージカルとして仕上げることにより、地域の文化や歴史に親しむことができている。	かなり達成された
(ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学べることが達成できているか。	地域の民謡協会のメンバーによる「養老川舟歌」の鑑賞を通して音楽のすばらしさを体験することができている。また、講師によるミュージカルは音楽的な質も高く、それを体験することによって音楽のすばらしさを同様に学んでいると思われる。	かなり達成された
(iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。	活動には市内21の小中学校から子どもたちが参加している。また、年齢も小学校1年生から中学校2年生まで多様である。こうした子どもたちがともに学ぶ集団として練習に協力して参加していることが観察された。こうした協調性は音楽活動を通して培われたものだと判断できる。	かなり達成された
(iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。	基本的な挨拶ができている。また、他のパートの練習を静かに聞くなど、音楽学習する態度が培われている。これらは講師の指導によるところが大きい。	かなり達成された
(v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。	上級生が下級生に自然にかかわり、さまざまなアドバイスをを行っている様子が観察された。また、大人としての講師が細かく指導することによって、長時間の練習にも緊張感をもって参加できている。これらは大人や異年齢学年の交流によってもたらされたものである。	かなり達成された
(vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。	子どもたちは市内21の小中学校から参加している。また、子どもたちの年齢にはかなり幅がある。こうした中であって、子どもたちはお互いに学びあう集団として育ってきている。これらは音楽するという活動によってもたらされたものであると考えられる。	かなり達成された
(vii) 総評	<p>この活動には市内21の小中学校から45名の子どもたちが参加している。こうした活動への参加者としては数が多い。まずは多くの子どもたちの参加を可能にした取り組みを評価したい。</p> <p>この活動は地域の民謡を素材にしなが、それをミュージカルとして完成させていくといったものになっている。地域の文化、歴史への関心を高めるだけでなく、ミュージカルの音楽的完成度も高く、この活動自体の音楽的な質の高さを感じることができた。</p> <p>子どもたちは、単に音楽を楽しむだけでなく、異年齢集団の中でお互いに学ぶ集団として育っているところも大きく評価できる場所である。</p> <p>こうした結果をもたらしたものは、やはり講師の質の高さであろう。その音楽的な力量の高さと同時に、子どもたちへのかかわり方についても質の高さを感じることができた。</p> <p>全体として、「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により効果的な体験の場・交流の場を創り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と地域を愛する心を育むという目的は十分に達成されていると思われる。</p>	

③ 保護者、教員等からの感想や意見(5名)

- (i) モデル事業の継続については、3名が「とてもそう思う」、2名が「そう思う」で、全員が継続を希望した。
- (ii) モデル事業に関する自由記述より
- ・「せっかく練習するのなら、最低月2回くらいないと、緊張感が持続しない気がしました。…礼儀正しく、自立してという指導をしてもらってよかったと思います。」
 - ・「歌や踊りなどをもう少し徹底して仕上げてもらってもいいかと思いました。」
 - ・「親が練習を見学できる機会があってもいいかと思います。」
 - ・「月1回の練習だったので、負担も少なく楽しく参加できました。」
 - ・「子どもが音楽を楽しく感じられるレッスンでした。」
 - ・「もっとスタッフの人数が多いといいと思いました。」
 - ・「学校や学年の枠を超えたお友達、先輩の皆さんと楽しく貴重な体験をさせていただきました。」
 - ・「親としては開催回数は無理がなくてよかったと思いますが、子どもたちにとってはどうだったかと思います。もう少し回数があると交流ができたかと思います。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見(5名)

- (i) 「楽しかったですか」という質問には、3名が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」と回答している。
- (ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、3名が「とてもやってみたい」、1名が「やってみたい」、1名が「あまりやりたくない」と回答している。
- (iii) 自由記述より
- ・「音楽がもっとすきになった。友だちがいっぱいできた。」(小2)
 - ・「ミュージカルはみんなと協力してやるものなので同級生だけでなく、いろんな学年の人とも仲よくできました。ふだん人は、あんまりこんなけいけんをしないのでとてもよかったと思います。」(小4)
 - ・「いろんなうたがおぼえられて、たのしくなって、友だちになったりできてうれしかった。」(小2)
 - ・「すごく楽しかったです。また来年も続けていきたいと思います。」(小4)
 - ・「友だちは、やさしくて、楽しくできた。一時間もしないうちに、すごくつかれた。ちょっとわからないところもあって、こまった。」(小3)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む					
窓口となる地方公共団体名	熊谷市教育委員会社会教育課					
教室名	おんがくっ子塾「箏で和くわくいきいき体験」					
実施場所	大里生涯学習センター					
実施回数	6回					
講師等	講師数	1回3名		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	1回2~3名		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	1~6年生	幼児参加	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	子どもの数	10人
参加者の募集方法	こども広報くまがやキッズ掲載(市教委発行) 最寄の小学校4校チラシ配布					
主な活動内容 (実施回毎に)	<p>9月14日: 箏の実技体験 及び演奏鑑賞(エレクトーン、ヴィオラ、箏)</p> <p>10月12日: 箏の実技体験 及び民謡の鑑賞、三味線に触れる。</p> <p>11月2日: 箏の実技体験 及び尺八の鑑賞(箏と尺八の合奏を聴く)</p> <p>12月7日: 箏の実技体験 及び二十弦箏の鑑賞(二十弦に触れてみる)</p> <p>1月18日: 箏の実技体験 及びヴァイオリンの鑑賞(箏との合奏を聴く)</p> <p>2月15日: 修了式、今までの練習の成果の発表、ネットワーク・埼玉の指導員による演奏(崖の上のポニョ、ビリーブ)を鑑賞する。修了証書授与、花束交換、意見交換。</p>					
計画した活動内容の 実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】</p> <p>1回目から、5回目までは予定どおりできた。要因としては、毎回箏の実技体験をとり入れた他に、違った楽器の鑑賞や触れてみることを計画し、講師への依頼がスムーズに進み変更なくできたこと。</p> <p>【予定どおり実施できなかった点とその要因】</p> <p>6回目は参加児童の箏の実技体験の進み具合をみて、発表できるまでの進歩があり、修了式の中で合奏発表ができた。また最終回は埼玉ネットワーク・音楽指導員の参加であったため、発表内容の決定に柔軟性を持たせた。</p>					
活動プロセスでの 工夫・苦労	<p>【工夫した点】</p> <p>箏の実技体験を一環してとおし、与えられるだけでなく自分たちで準備片付け、実際に自分が弾くということを体験し、達成感を持たせた。いろいろな楽器の生演奏を聴きながら、実際に触れてみることを。保護者の協力や積極的な参加を呼びかける。</p> <p>【苦労した点】</p> <p>参加児童が実技体験をする楽器箏10面を毎回用意すること。</p> <p>月1回日曜日は学校や地域の行事と重なることがあり、参加が少ないときがあった。</p>					
目ざす効果・成果が 得られたか	<p>【評価できる効果・成果】5年生男子1名、6年生男子3名は準備や片付けを褒めたら、とてもやる気になり自分たちから積極的にやるようになった。「親子で参加すること」を児童に話すとき子供から親へ参加すること、あいさつすることをうながすようになった。ゲストの演奏者や楽器に親近感を持ち、質問など会話がはずんだ。</p> <p>【得られなかった効果・成果】</p> <p>6年生女子で、声が小さく消極的な印象があった。母親の送迎で体験と一緒に見守っていた。箏が弾きたいという気持ちはあったようだが、参加回数は2回であった。</p>					

来年度以降の
取り組みについての課題

【内容・運営面から】

私一人が立案、計画し指導員に依頼するというので、負担が大きかったように思う。
参加者、保護者、協力者との相談、連携を密にして参加者や指導員の意識も高めて行くようにしたい。

【市区町村との連携の観点から】

私は、熊谷市文化連合(市長名誉会長)に所属しており、この会はすばらしい文化人の庫である。今回も民謡の演奏者をお願いしたが、舞踊や洋楽など他団体とも親交を深めて行きたい。



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	<p>熊谷の歴史を調べ、特に「熊谷次郎直実」について地域や学校でどのような取り組みを実施しているか、またどのような団体が何をしているかについて関心を持った。</p> <p>民謡の「直実節」は市内の全小中学生が運動会で踊っている。スピーカーから流れてくる音でしか聴いたことのない民謡を生演奏と、曲についての詳しい内容を演奏者から話していただいた。</p>	目的は「かなり達成された」
ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	<p>地域に住んでいる楽器の演奏者のコンサートを聴きに行き演奏者の人柄や実力を感した上で、楽屋まで行き楽器片付けの手伝いをしたりしながら、子どもたちに音楽を体験させることについて理解していただくように協力をお願いした。箏は6回とおして実技体験をするために、私の楽器を私が運び10面用意し十分に触れられるようにした。箏は日本の伝統楽器というイメージを基本に「さくら」で基本的な弾き方から始め、良く知られているエレクトーンやヴァイオリン等の洋楽器とも合奏し今の曲、良く知られている曲とも合奏できることを知ってもらった。エレクトーン、ヴァイオリナ、尺八、三味線、篠笛、二十弦箏などの楽器と演奏者紹介し、実際の楽器を目の前に説明や音を聴き歴史などにもふれ楽器に関心を持たせた。実際に触れることにより、親近感を持たせた。</p>	目的は「かなり達成された」

<p>iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>準備や片付けをみんなでするよう促し、一生懸命している子や、高学年の男子を上手く使い体を動かして、みんなで協力するよう言葉かけをした。この6回の体験で箏が上手に弾けるようになることだけが、目的ではなくこの体験をとおり、一生懸命練習すること、準備をする大変さを知りみんなで協力すること、また準備してくれた人に対し感謝の気持ちを持つことを毎回話した。みんなで心を合わせて合奏すること、勝手な弾き方をしない、基本的な弾き方をすること等、約束事を毎回話した。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>こちらから、積極的に「おはよう」「ありがとう」「よろしくね」と言葉かけをしっかりと。準備ができ、実技体験を始めるときの、正座での礼のやり方や箏演奏するときは正座で頑張ることをその都度話した。子どもたちにも、今ここでこの体験ができることはいろいろな人達のお陰であることを知らせ、感謝の心を持ちそれを言葉としてはっきりとした言葉で言わないと伝わらないこと話した。保護者の顔をみたことがない生徒もいたが、修了式に参加できない生徒がお母親を私のところに連れて来て、母親を紹介し母親が「次回はお休みします、いままでありがとうございます」といってくれた。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
<p>v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>児童の実技体験の後、プロの演奏家によるミニコンサートは、家族や知り合いに声をかけ、鑑賞だけでも来ていただくようにした。 私が中学校で教えた生徒は10年間になり、住所と名前は知っていたが、19年度卒業生とは携帯メール交換をするようになった。いろいろと連絡を密にして今回も高校1年生に連絡し、手伝を依頼し参加していただいた。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
<p>vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>市教委(社会教育課)にお願いし、熊谷市の広報「くまがやキッズ」に体験実施の記事を掲載していただき募集した。実施する会場の設置場所が交通の便が悪く、自家用車で保護者の送迎がないとかなり大変な場所にあるため保護者の責任についての送迎をお願いした。(他にはなかなか適当の施設の確保が難しい。)楽器(箏10面)の運搬は大変だったができるだけ子供たちが体験できるよう揃えた。参加児童と保護者との触れ合いの大切さを、児童の体験の中でいつも話した。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>

② 調査報告

報告者:立田慶裕

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】かなり達成された

(vii) 総評 わずかな回数でありながら、その間に、保護者の参加も得て、多様な楽器に触れさせ、音楽のすばらしさを体感させている事業である。指導者のうまさもあるが、講座修了時には、指導者の言葉を待たずに、自発的に楽器を片付け、相互の交流を図り合っている。

地元の熊谷二郎の物語については、題材が難しいせいか、どれだけ理解できたかが課題であろう。これには、地域自体が、この物語について十分な情報提供をしていない点にも問題があり、この講座だけの問題ではないと思える。調査者まで思わず、参加してしまいたくなる素晴らしい講座だった。

③ 保護者、教員等からの感想や意見（3名）

(i) モデル事業の継続については、3名が「とてもそう思う」で、全員が継続を希望した。

④ 参加した子どもたちからの感想や意見（3名）

(i) 「楽しかったですか」という質問には、3名が「とても楽しかった」と回答している。

(ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、3名が「とてもやってみたい」と回答している。

(iii) 自由記述より

- ・「ことは、じゅんぴからかたづけまでやるから、大へんだったけど、協力してできたのでよかったです。ことの発表会もあって楽しかったです。ヴァイオリンのたいけんが楽しかったです。ことと、オカリナなどのポニョのえんそうがやってみたいです。先生は上手かったです。やさしく教えてくれてありがとうございました。」(小3)
- ・「はじめてやったけど、2回だけでもはっぴょう会に出られてよかったです。ひけるようになってうれしかったです。」(小2)
- ・「一年間、いろいろな楽器のえんそうが聞けたり、楽器にさわれたりして、とても楽しかったです。」(小6)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	平塚市文化財団					
教室名	おんがくっ子平塚					
実施場所	平塚商業高校・平塚市民センター・青少年会館・八幡公民館					
実施回数	31回					
講師等	講師数	5人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	4人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	1~6年生	幼児参加	有・無	子どもの数	20~50人
参加者の募集方法	広報平塚・文化財団ニュース、第九実行委員会よりチラシ、湘南ホームジャーナル、湘南新聞					
主な活動内容 (実施回毎に)	<p>【おもしろ第九講座】～ウィークエンドコース～</p> <p>9月6日:「第九」についての基礎知識:作曲家ベートーヴェンについて・作品について、混声合唱について→パートナー分け・発声練習</p> <p>9月13日:「第九」についての基礎知識:発声練習・ドイツ語の発音・子音と母音</p> <p>9月20日:オーケストラについて:オーケストラの楽器の説明、ビデオ(プロジェクトX~群馬交響楽団第九への挑戦~)</p> <p>9月27日:声について:ソロ・合唱・音域とパート別の特徴について・ドイツ語の発音について</p> <p>10月4日:声について:子音とウムラウトの発音について</p> <p>10月11日:声について:各パート別のメロディーの特徴と重なり合わせた音の特徴</p> <p>10月18日:響きと表現:短調と長調の響きの違い、強弱の表現</p> <p>10月25日:響きと表現:強弱・ダイナミクス、カンニングプレスの仕方</p> <p>12月6日:フーガの表現:ダブルフーガの表現について・各パート別音とり・アンサンブル</p> <p>12月13日:アンサンブルについて:混合合唱の響き、リズム練習・各声部の役割について</p> <p>～放課後コース～においても、ほぼ同様の内容を、行った。</p> <p>【民族音楽講座】祭囃子</p> <p>9月5、12、13日:準備運動・祭囃子実技練習・クールダウン</p> <p>9月26、28日:祭囃子・部分練習</p> <p>10月3日:祭囃子ビデオ撮り・全体通し練習</p> <p>10月10日:衣装着用・各フォーム配置構成</p> <p>10月17日:パートナーを覚え練習</p> <p>10月24日:全体通し練習</p> <p>1月23日:準備運動・踊りづらいフォーム練習</p>					
計画した活動内容の実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】</p> <p>計画内容に沿って、全回数が実施できた。平塚市文化財団の協力(会場提供・募集受付の窓口など)、第九実行委員会のメンバーが毎回率先して参加し、合唱指導のサポートを行った。</p> <p>【予定どおり実施できなかった点とその要因】</p> <p>小学校の行事予定の把握が難しく、平日の小学生の参加時間が遅れることがあった。9月~12月にかけての実施は日が短くなるため、放課後は保護者の迎えの協力が無いと防犯上難しかった。</p>					

<p>活動プロセスでの工夫・苦勞</p>	<p>【工夫した点】 第九を様々な角度(作曲者、作品、演奏形態、楽器、混声合唱など)から捉え、興味を引き出すように導いた。季節感のある講座を設定した。クリスマスの工作や具体的な楽器の説明、体験を行った。祭ばやしにおいては、伝統芸能(歌舞伎、邦楽等)についての説明をし、楽器を使って体で表現することで邦楽への理解を深めるよう工夫した。</p> <p>【苦勞した点】 ドイツ語の子音の出し方、ウムラウトの発音。第九の中間部の表現(強弱表現やテンポの変化)、高音でのロングトーン。(以上第九) 個人差によるリズム表現を全体としてまとめること(以上祭ばやし)</p>
<p>目ざす効果・成果が得られたか</p>	<p>【評価できる効果・成果】 第九においては小学生がソプラノパートを歌うことが出来た。ほぼ全員が、ドイツ語で最後まで暗譜できた。本体(第18回湘南平塚第九のつどい=2009年2月8日公演)に参加30% 若年層の第九愛好者が増えた。祭ばやしにおいては、全身で表現する喜びや日本の音楽に対する理解を深めることが出来た。</p>
<p>来年度以降の取り組みについての課題</p>	<p>【内容・運営面から】 より多くの子どもが無料で参加できるよう潤沢な資金の調達が必要であるが、現実には市町村からの支援はなく、ボランティアに頼っている状態である。また防犯上の面から、放課後の実施は秋から冬は一考が必要である。</p> <p>【市区町村との連携の観点から】 第九においては、次年度も第九実行委員会がこの活動を続ける旨、申し出があった。</p>



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
<p>i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>「敬愛なるベートーヴェン」「群馬交響楽団第九への挑戦」「ベートーヴェン物語」などのビデオ鑑賞を実施。第九実行委員会のかたからの平塚市の開かれた第九の説明や呼びかけをした。平塚市では「七夕太鼓」「田村太鼓」など太鼓の音楽活動が盛んであり、その太鼓のリズムに三味線のメロディーをのせた音楽を使った音楽の身体表現を試みた。(祭りばやし)</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>第九の講座の時には毎回第九実行委員のかたの協力によりソプラノ、アルト、テノール、バスの4パートに経験者の参加協力があり混声合唱の響き、正しいメロディーが子供たちの音とり、合唱表現に力強い味方となった。「祭りばやし」は動きの解説図、ビデオも配布し完成度がアップした。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>

iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	「祭りばやし」では体系が変わるたびパートナーやグループがかわり、より多くの人と関わる機会がふえた。休んだひとのフォローを高学年の子どもが率先してやった。	目的は「かなり達成された」
iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	開始、終了の挨拶の徹底。会場にきて友達と会ったときに気持ちよく挨拶が交わせるように指導者、保護者が率先して挨拶をした。遅刻、欠席の連絡の徹底。(事故を未然に防ぐためにも、参加者の所在の把握)。障害児や具合の悪い子への思いやりのある行動へと導く指導を心がけた。	目的は「ほぼ達成された」
v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	保護者や参加協力者(第九実行委員会のメンバー)の協力を大いに歓迎し、保護者にも一緒に音楽活動を経験してもらい、活動の中で役割を分担し、一つの目的に向かってみんなで努力し、積み重ねることの大切さ、達成感を共有する体験をしてもらった。	目的は「ほぼ達成された」
vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	平日は日が短くなる時期は帰り道の安全を考慮し、保護者の責任の下送り迎えを徹底してもらった。子どもが通いやすい公共の場所の確保。	目的は「ほぼ達成された」

② 調査報告

報告者: 澤崎 眞彦

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】かなり達成された

(vii) 総評

平塚市の本プログラムでは、内容を「おもしろ第九講座」と「民族音楽(日本)講座〈祭囃子〉」の二つの講座を開講した。その為、講座指導員の忙しさと共に、指導員の音楽的能力、指導力等々をも問われるものであった。それが指導員の素晴らしい技量により、実り多いプロジェクトとして成果を挙げていた。それぞれの講座への参加者は、30名程度ではあったが、「おもしろ第九講座」では、「第18回湘南平塚第九のつどい」(2009年2月8日公演)の合唱の一翼を担っていたほどである。またそこでは、小学生から成人、さらに高齢者の方々との交流もあり、年齢を超えた学びが展開され、音楽を通しての一体感を味わうことのできた実り多い講座であった。

また、「民族音楽(日本)講座〈祭囃子〉」の講座では、祭囃子の実技指導や衣装を着用することによって、臨場感を味わうと共に日本の芸能や地域に伝わる芸能について、体験を通して理解が深まり、地域に対する愛情が育まれていると思えた。

全体を通して本プログラムは、参加した児童・生徒たちが、音楽を楽しみや学びだけではなく、音楽を通して互いに学びを享受する仲間として育っていることを実感させられるものであった。

また、指導員相互の連携がよく出来ていて、保護者も参加しており、高齢者の方々も含め地域の人々皆が、子どもたちの学習の場を真剣に考え、提供していたと言えるものであった。

③ 保護者、教員等からの感想や意見(21名)

- (i) モデル事業の継続については、21名が「とてもそう思う」で全員が継続を希望した。
- (ii) モデル事業に関する自由記述より
 - ・「地域や子ども会の行事と重なることが多く、理解が少ない。」
 - ・「回数を増やしてほしい。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見(26名)

- (i) 「楽しかったですか」という質問には、24名が「とても楽しかった」、2名が「楽しかった」と回答している。
- (iii) 自由記述より
 - ・「今度もやりたいです」(小5)
 - ・「もっとすごいミュージカルをやってお客さんをよろこばせたいですね。そしてみんなに夢をあたえたいですね。全国をまわる!」(中2)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	新潟市教育委員会					
教室名	南ふれあいキッズ「お祭りおんがく隊」					
実施場所	新潟市立南中野山小学校					
実施回数	7回					
講師等	講師数	4人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	6人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	1~6年生	幼児参加	○有・無	子どもの数	50人
参加者の募集方法	地域の新聞社から全地域にチラシ折込配布。学校内チラシ配布・ポスター掲示。					
主な活動内容 (実施回毎に)	11月20日：楽器紹介、アンサンブル、講師演奏、地域の方の演奏 12月11日：発声・発音練習、合唱、アンサンブル 12月19日：クリスマス会(アンサンブル、ボディーパーカッション、講師演奏、ジェンカ) 1月15日：パート練習、アンサンブル 2月5日：六送会にむけてパート練習 2月20日：六送会リハーサル、交流会 2月26日：六送会での演奏発表					
計画した活動内容の 実施結果	【予定どおり実施できた点とその要因】 ・地域コーディネーターとの連携がよくでき、全てを通して、予定通りに実施できた。 ・地域の方々のご協力が大きく、参加児童に対して、音楽の楽しさを伝えることができ、演奏に集中することができた。 【予定どおり実施できなかった点とその要因】 ・学校の授業変更の連絡を確認するのが遅く、開始時間や、回数を変更せざる得なかった。					
活動プロセスでの 工夫・苦勞	【工夫した点】 ・誰でもすぐ演奏に参加できるような気配りと、編曲になるように工夫した。 ・参加者がいつでもこれるような雰囲気作りと、毎回の様子を学校内に知っていただくよう、ふれあいキッズ「お祭りおんがく隊」通信を作成した。 ・地域コーディネーター、ふれあいスクールのスタッフとの連携を積極的にすることを工夫した。 【苦勞した点】 ・全学年対象としたので、参加する子ども達の意識が大きく違い、まとめることに苦勞したが、後半は、地域の方々のご協力で、楽曲演奏をする楽しさに気持ちがまとまった。					
目ざす効果・成果が 得られたか	【評価できる効果・成果】 ・様々な音楽ジャンルを演奏し、経験することによって、音楽の楽しさと素晴らしさを学ぶ事ができた。また、本物の音楽の良さ、深さを知る事で、音楽に対する興味関心が深まり、楽器を演奏するときの集中力がついた。 ・それぞれの楽器の演奏法を自分なりに工夫して、友人に見せ合ったり、互いのコミュニケーションが大変よく取れるようになり、人の音を聞くことの楽しさが身についた。 【得られなかった効果・成果】 ・特になし					

来年度以降の
取り組みについての課題

【内容・運営面から】

内容：参加児童が何をするかを理解したので、今後は、次の発表に向けての新しい選曲が必要になる。4月に新入生を迎えての、楽しい音楽体験ができることが望ましい。

運営：ふれあいスタッフとの連携が確立されたので、今後さらにこの企画を地域の公共施設へ普及拡大していきたい。

【市区町村との連携の観点から】

・地域コーディネーターを通して、市教育委員会、区の運営体制と来年度について協議をしていく必要がある。



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	地域の新聞社から全地域にチラシ折り込みを配布してもらったなど、広く地域に呼びかけ、実際にたくさんの方にご参加頂いた。子どもたちは、地域の大人と音楽を通してともに同じ時間を過ごすことで、自分も地域の一員であることを実感。今後活動する上で、地域に伝わる歌、楽器などがあればうまく取り入れていきたい。	目的は「かなり達成された」
ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	楽典、楽器の紹介など基本を教えつつ、奏法の違いで音色が変わることを実演してみせ、子供たちにも演奏してもらった。また、簡単なフレーズのパターンを用いることで、即興でアンサンブルが楽しめることを体験。学校にあるマリンバ、ビブラフォン、鍵盤楽器、ボンゴ、コンガなどと、地域の方による大正琴、ハーモニカ、マンドリン、指導者が持参するキーボードなどとの合奏を通して、いろんな楽器との調和を感じる。そのほか、講師による演奏を鑑賞し、音色やハーモニーの美しさを感じたり、音楽に合わせてリズム打ちやボディパーカッションをするなど、体を動かして全身で楽しみながら音楽を学ぶ。	目的は「かなり達成された」

<p>iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>最終回到演奏発表会をするという具体的な目標を設定したことで、自分のパートに責任をもち、それぞれが積極的に取り組む。他学年(先輩・後輩)だけではなく地域の大人も参加したことで様々な年代の集まりとなり、自然と教えたり教わったりという仕組みができたように思う。アンサンブルを通して、他の人と音を合わせようと協調性を学び、ハーモニーを感じながらだんだんみんなの音がひとつになる達成感を体感。音楽の楽しさや演奏の喜びを感じることで、積極性や責任感がさらに増した。時間外に仲間です声を掛け合って自主的に練習をしていた子どももいたようだ。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>毎回、始めに、始めの挨拶と今日やることの説明、終わりに、今日のまとめと次回の説明、終わりの挨拶を必ず行う。まとめでは、今日の活動の中で良かったこと、感心したこと、楽しかったことなど具体的に挙げて子どもたちの注意をひき、話を聞く姿勢をつける。講師だけでなく、地域の方々も、子どもたちにきちんとした態度で接していただいたことで、子どもたちも挨拶など自然とできていた。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>活動対象を校内の児童だけではなく、保護者・地域の方々すべてとし、地域の新聞社から全地域にチラシ折り込みを配布してもらうなど、広く地域に呼びかけた。実際にたくさんの方々から、大正琴やハーモニカなど楽器持参でご参加いただいた。子どもたちは、異学年や地域の大人とともに、互いの演奏を鑑賞する、ともに教え合い合奏する、大正琴の奏法を教えてもらうなど、大変意義のある充実した時間をすごした。第3回目のクリスマス会終了後には、地域の方々とクリスマスツリーとリース作りを行うなど、音楽以外にもつながりができていった。また、来年度には、中国の姉妹校の使節団歓迎会で演奏を披露することを予定しており、音楽による交流の輪を更に広げていきたい。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>保護者・地域の方々、地域コーディネーター、学校など関係各所からご支援、ご配慮をいただき、うまく連携をとることで、時間や回数の変更など迅速な対応が取れた。また、第6回終了後には交流会を開き、地域の方々からいろいろなお話を伺うことができた。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>

② 調査報告

報告者: 澤崎 眞彦

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】かなり達成された

(vii) 総評

本事業は、学びの場である学校と地域とが一体となって推進していることを実感させられた事業である。学びの場となった学校では、校長先生が筆頭となって本事業の宣伝・広報活動を行い、地域の新聞集配場と連携して参加者を募り、発表会の広報を行っていた。また、音楽指導員、地域コーディネーターと学校を中心とした「ふれあいスクール」との連携により、音楽活動の内容の幅と深さを追求している姿を見ることができた。特に、「ふれあいスクール」からの支援では、大正琴の指導者が本事業の指導の一員として加わり、児童の積極的な取り組みへと結びついており、相互の交流も図られていた。

本事業による演奏には、本事業に携わった関係者の協力と努力、思いやり、音楽を大切にしている心持ちを強く感じる素晴らしいものがあった。生涯音楽指導員、保護者、学校関係者、「ふれあいスクール」の方々等々の連携に目を見張るものがあり、それは児童の奏でる音楽にも現れていた。

さらに、学習の場では、多くの楽器に触れさせ、指導員の適切なアドバイスにより、音楽の質の高さを体感させていた。また、講座終了後は、児童の楽器の後片付け、教室の整理整頓など自発的な活動が見られ、普段の指導のきめ細かさも感じられた。

本事業は、音楽指導員を中心とした取り組みでなされ、望ましいチームワークが形成され、機能的にも多くの学ぶべき成果をあげている。

本事業から、「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の目的は十分に達成されていると言えるものであった。また、本事業は、これからのモデル事業の一つの雛形とも言えるものであると言えよう。

③ 保護者、教員等からの感想や意見 (5名)

(i) モデル事業の継続については、2名が「とてもそう思う」、3名が「そう思う」で、全員が継続を希望した。

(ii) モデル事業に関する自由記述より

- ・「すばらしいでした。」
- ・「音楽は好きになりました。」
- ・「子どもたちが楽しそうでした。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見 (5名)

(i) 「楽しかったですか」という質問には、4名が「とても楽しかった」。1名が「楽しかった」と回答している。

(ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、4名が「とてもやってみたい」、1名が「やってみたい」と回答している。

(iii) 自由記述より

- ・「きれいなおとでした。」(小1)
- ・「とてもおもしろかった。」(小2)
- ・「たのしかった。」(小1)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	三好町教育委員会 教育部 教育行政課					
教室名	三好子ども音楽セミナー					
実施場所	新屋児童館					
実施回数	6回					
講師等	講師数	4人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	4人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	1~6年生	幼児参加	○有・無	子どもの数	30人
参加者の募集方法	三好町広報への記載、町内小学校へのチラシ配布による公募。三好町役場・児童館・生涯学習センターなどチラシ設置による公募。					
主な活動内容 (実施回毎に)	<p><音・遊・友 SUN KIDS 放課後音楽学習講座></p> <p>♪♪♪ 「MY MEMMORY～思い出のアルバム～」 ♪ ♪ ♪</p> <p>第1回～第4回</p> <ol style="list-style-type: none"> ♪ボディパーカッション:「花火」「祝いの手打ち」 ♪リズムステップ:「クリスタルチルドデン」 ♪歌:「うみ」「ゆうやけのそらをとべたら」 アンサンブル:「軍隊行進曲」 箏とコラボレーション:「さくら」 成人・高齢者～歌～:「夏の思い出」「千の風になって」 手作り楽器の製作:「レインスティック」 巫女舞の体験 <p>第5回:修了コンサートリハーサル 第6回:「修了コンサート」</p>					
計画した活動内容の 実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】</p> <p>子どもたちが、体験、経験した思い出の数々を「さくら」「うみ」「まつり」「かぜ」にたとえ 物語化した。主人公の「よしくん」「みっちゃん」を受講生から選び、全員の掛け声とともに、歌・ボディパーカッション・アンサンブル・コラボレーションなどを通して、楽しく実施できた。</p>					
活動プロセスでの 工夫・苦勞	<p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名札の作成 ・皆勤賞の作成 ・パート譜の作成 ・立ち位置の図表の作成 ・来年度に向けてのアンケート <p>【苦勞した点】</p> <p>読譜力に差が有り、グループ分け、パート分けに時間がかかった。幼児も多く、なかなか曲の仕上げに時間がかかり、別に練習日を取り特訓した。</p>					

<p>目ざす効果・成果が得られたか</p>	<p>【評価できる効果・成果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 子どもたちが体験、経験した思い出の数々を物語化できた。 2. 日本の伝統音楽を体験し、日本の伝統音楽の素晴らしさを学べた。 3. 三好町の巫女舞を通して、伝統行事や祭りを活性化し、学習できた。 4. 成人・高齢者が児童館に集まり、幼児・児童と一緒に音楽活動する機会を提供した。 5. 異学年交流に加えて、異世代交流を体験できた。 6. 基本的な挨拶や礼儀とその大切さを学べた。 7. 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通じて豊かな心を育む学習機会を提供できた。 8. 合奏、合唱、手作り楽器といった共同作業を通じて友達関係、仲間意識、協調性を育むことができた。
<p>来年度以降の取り組みについての課題</p>	<p>【内容・運営面から】</p> <p>アンケート調査結果では、ほとんどの受講生が継続希望であった。来年度でセミナーも5年目を迎える。全てのプログラムをもう一度見直し、できればミュージカルに挑戦したいと考えている。地域と連携し、子どもの健全育成により一層寄与したい。</p> <p>【市区町村との連携の観点から】</p> <p>三月中旬に平成20年度を三好町教育委員会に提出する。今後の有り方を三好町の状況も踏まえ、相談したいと思っている。</p>



① 実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
<p>i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>毎年10月になると、三好町行政区ごとに祭りが開催される。小学1年～4年生の女子は、「巫女舞」を、4年～6年生の男女は、「お囃子」を氏子の方たちから伝承される。セミナーでは、巫女舞の体験を通して、伝統行事や祭りを活性化し学習した。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
<p>ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>発表曲目である春「さくら」を箏とコラボレーションすることにより、日本の伝統音楽を体験し、本物の音楽や伝統音楽の良さを学んだ。自愛にお琴を体験し演奏した。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>

iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	ボディーパーカッション「花火」「祝いの手打ち」を4グループに分け、協調性を養った。・合唱「さくら」「うみ」「ゆうやけのそらをとべたら」を歌い、音楽に合わせる心を学んだ。・合奏「うみ」「軍隊行進曲」を通して、合奏する楽しさを学んだ。・リズムステップ「クリスタルチルドレン」を通して、拍子感・リズム感を養い、リズム表現の楽しさを体験した。	目的は「かなり達成された」
iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	基本的な挨拶と大切さを開講時に話し、できるかで繰り返し行った。「お願いします」「ありがとうございます」などの基本的な挨拶は、場面、場面で自然にきちんとできるようになった。	目的は「かなり達成された」
v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	夏「うみ」で使用する手作り楽器「レインスティック」の製作を通して、異学年交流に加え、成人や高齢者の参加による世代間交流を図った。	目的は「かなり達成された」
vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	実施場所である「新屋児童館」に集まり、緑豊かな自然環境の中で、地域の方々の協力を得て音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供した。	目的は「かなり達成された」

② 調査報告 報告者:久保田慶一

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】あまり達成できなかった
【コメント】地元の神社の巫女踊りがプログラムに組みこまれていたが、参加した子どもたちが踊りの意味や楽しみが共有できるような工夫がほしい。
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された

(vii) 総評 指導者のチームワークがよく出来ていた。また保護者も参加しており、大人たちが子どもたちの学習機会の提供を真剣に考えていた。
子どもたちの年齢差はかなり広く、指導に際しても苦労があったと思うが、指導者の適切なサポートを得てうまくできていたと思う。
今回の事業では、地域の歴史や文化を学ばせるという趣旨が重要な項目となっていた。四季の移り変わりの中で、秋祭りのひとつとして巫女踊りが取り入れていたが、他のプログラムとのつながりももう少しあっていいという感想をもった。なかなか難しいことではあるが、例えば、子供たち全員で祭囃子を経験してみるとか、大人たちの協力を得ることもできたかと思う。これは今後の課題となるであろう。

③ 保護者、教員等からの感想や意見（15名）

- (i) モデル事業の継続については、9名が「とてもそう思う」、6名が「そう思う」で、全員が継続を希望した。
- (ii) モデル事業に関する自由記述より
 - ・「楽しかったです。男子は少なくて恥ずかしい様子で、ふざけたりもしましたが、上手にやりたい気持ちはあったようです。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見（14名）

- (i) 「楽しかったですか」という質問には、11名が「とても楽しかった」。3名が「楽しかった」と回答している。
- (ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、7名が「とてもやってみたい」、7名が「やってみたい」と回答している。
- (iii) 自由記述より
 - ・「楽しかったです。」(小4)
 - ・「もっとやりたい」(小3)
 - ・「ボディーパーカッションや歌、曲をひいてとても楽しかったです!」(小4)
 - ・「きんちょうしました。」(幼・年長)
 - ・「おどりがたのしかった。」(幼・年中)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	大阪市東成区役所					
教室名	なにわおんがくっ子塾					
実施場所	東成区役所1階「ふれ愛パンジー」					
実施回数	6回					
講師等	講師数	4人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	4人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	小1~6年、 中1~3年	幼児参加	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	子どもの数	20人
参加者の募集方法	広報、チラシの配布					
主な活動内容 (実施回毎に)	12月7日：鍵盤楽器の体験「かえるのうた」「崖の上のポニョ」 12月21日：鍵盤楽器の体験「きよしこのよる」「ジングルベル」 1月11日：箏の体験「かえるのうた」「ぶんぶんぶん」 1月18日：箏楽器の体験「さくらさくら」 2月1日：管楽器の体験「こげよマイケル」 2月15日：管楽器の体験「さんぽ」					
計画した活動内容の 実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】</p> 子どもたちは、地域の市民協働ステーション「ふれ愛パンジー」で音楽を通しての社会体験ができた。音楽面では、普段触れない楽器の演奏体験ができた。難しいと思っていた楽器も実際に演奏すると楽しいこと、また、出来ないこともやってみると出来るということを体感してもらえた。 <p>【予定どおり実施できなかった点とその要因】</p> 地域を取り入れてということで、上方文化やジャズの発祥を伝えたかったが、演奏体験が中心になってしまいがちであった。また「ものづくりのまち」としての認識をもたすことがなかなか難しかった。当初、音楽ボランティアと一緒に実施予定であったが、音楽ボランティアも他の活動を自主的に運営するようになり、地域での広がりに欠けた。					
活動プロセスでの 工夫・苦勞	<p>【工夫した点】</p> 実施会場とのコミュニケーションを頻繁にとるように心がけた。 <p>【苦勞した点】</p> 参加者の募集が思うようになかった。鍵盤楽器(キーボード)や箏は、参加者集めに苦勞した。(管楽器は人気があり自然に集まった。)					
目ざす効果・成果が 得られたか	<p>【評価できる効果・成果】</p> 地域での保護者同士のつながりが生まれた。子どもたちが学校以外の大人やお友達と触れ合う交流の場をもてた。居心地の良い場を、保護者の方にも、子どもたちにも提供でき、また来たい・音楽がしたいという気持ちを抱いてもらえた。楽器演奏という貴重な音楽体験ができ、音楽の素晴らしさや楽しさを実感してもらえた。 <p>【苦勞した点】</p> 地域のボランティアと協働できず、その点での地域活動の推進をはかれなかった。					

来年度以降の
取り組みについての課題

【内容・運営面から】

地域での保護者同士のつながりが生まれた。子どもたちが学校以外の大人やお友達と触れ合う交流の場をもてた。居心地の良い場を、保護者の方にも、子どもたちにも提供でき、また来たい・音楽がしたいという気持ちを抱いてもらえた。楽器演奏という貴重な音楽体験ができ、音楽の素晴らしさや・楽しさを実感してもらえた。

【市区町村との連携の観点から】

地域のボランティアと協働できず、その点での地域活動の推進をはかれなかった。



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
<p>i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>上方文化の発祥の地である大阪であるが、邦楽の発展においても重要な役割を果たしている。大阪での邦楽の歴史を、実際に堺の港から入ったと言われる三味線の鑑賞を交えながら話した。また、大阪の作曲家である菊武祥庭(きくたけしょうてい)による「新巢籠」の鑑賞をした。洋楽においては20世紀初頭に大阪港から入ったジャズが「道頓堀ジャズ」として繁栄した話を交えて、「こげよマイケル」のジャズ演奏の鑑賞もした。「ET」の自転車が地元東成区で製造されたことなども伝えていった。</p> <p>今回の実施会場は区役所の1階にある「ふれ愛バンジー」という市民協働ステーションである。2008年3月23日にオープンした大阪市内で初めての協働ステーションである。地域の区役所にこのような地域の住民と行政が協働するための施設があることを知っている人は少ない。実際に訪れ、そこで活動するということが、そのまま地域の人々と関わり、自分の地域を知ることになると思う。そこには、「なにわ伝統野菜」が展示してあったり、「ものづくりのまち」が作成した木の手づくりおもちゃがあったりする。その空間にすることが重要なことである。</p> <p>音楽をはじめ芸術には人と人を繋ぐ見えない力があると思われる。「地域の市民協働ステーションで、地域の子どもたちが集まり音楽をする」ということが地域を愛する心を育むことにつながる。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>

<p>ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>体験楽器は、鍵盤楽器・箏・管楽器を取り入れた。「打つ、はじく、吹く」という演奏方法から楽器の理解を深めるため選択した。鍵盤楽器を演奏できる子どもたちは比較的多いかと思われるので、一人ではできないアンサンブルを経験してもらい、楽典的なことにも触れた。箏や管楽器は初めての子どもたちがほとんどなので、負担のないように心がけながらも、少しずつ弾けるようになる達成感を感じてもらった。体験楽器は、集中して体験できるように1人に1楽器を用意した。そして講師の鑑賞曲を毎回プログラムに入れ、音楽の素晴らしさを味わってもらった。体験曲も、アニメ曲・ポピュラー・クラシック・日本古謡・ジャズなど幅広いジャンルから選曲し、様々な音楽を知る一つのきっかけになるようにした。初めての楽器であった箏や管楽器(フルート・サクソ・クラリネット・トランペット)でもお友達同士でアンサンブルができ、「音と音が重なり合い、自分の音がみんなの音と一つになって素敵な曲・音楽になる」ということを実感してもらえた。音楽の素晴らしさを十分に学べたと思う。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>合奏という共同作業がほとんどだったので、同じパート同士は自然と仲間意識ができた。特に管楽器のときは、同じ楽器同士で練習をし、最後に全員で発表をしたので、仲間意識はかなり上がっていたと思う。合奏をするという作業自身が協調性を必要とするものであるし、協調性を育む作業である。合奏するには「息を合わす」ことが必要で、「せいの〜で〜」と一緒に息を吸うだけでも子どもたちは仲間であり、友達だという意識が高まる。吹く楽器はなかなか音が出ないので、子どもたちも一生懸命である。どの楽器の体験時も、出来ないけど楽しいという思いを持ってもらうように、指導、特に1人1人への声かけには留意した。皆で少しずつ上手になっていくという過程を共有することで、仲間意識が高まる。一生懸命練習した曲を皆でりっぱに演奏したいという気持ちが、皆に迷惑をかけない、皆でやっている時間を大事にしようという協調性に繋がったと思う。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>皆で楽しく音楽をするためには、子どもたちや保護者の方々の協力が必要だということをお願いした。まず、大きな声で「おはようございます!」と挨拶すると元気が出て、皆が仲良くなる…などの話を交えながら進めた。演奏する時も、背筋を伸ばす方が見ても気持ちがよく、素敵な演奏ができることも随時伝えた。帰り際も皆きちんと挨拶をして退室されていた。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
<p>v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>可能なときは保護者の方々にも、一緒に体験をしていただいた。同じように体験して一生懸命の保護者の様子に、子どもたちも嬉しそうであった。子どもと大人が同じ目線になれる機会だったと思う。 また我々指導者は子どもたちが全く知らない大人であり、自分のことを知らない人にどのように接していくかということを経験できたと思う。音楽の場での交流であったので、自然と異世代の人とも交流をもてたのではないかとと思われる。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
<p>vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>子どもたちの放課後であるが、ウィークデイはお稽古事で時間が取れない、また冬季は暗くなる時間が早いことなどから、日曜日に実施した。時間的に余裕がある曜日なので、ゆっくりと音楽体験ができ、時間的余裕が気持ちの余裕を生み、豊かな心を育む学習機会に適していると思ったからである。 また、6回通しの内容にすることも1つの良い方法だが、今回はあえて1回ごとの完結にした。学校や地域の行事で参加できなかった子どもたちが、1回休んだからと次回の参加に支障がないようにするためである。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>

② 調査報告

報告者:今西幸蔵

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】かなり達成された

(vii) 総評

最初に調査に訪れた日は、子ども6人と成人3人による箏の演奏が行われていた。曲目は「かえるのうた」と「さくら変奏曲」である。

ネットワーク大阪の事業ということであるが、川村先生をはじめとする大勢の指導者が、仕事を分担し、協力し合って進行している姿に安心感を得たのは私だけではないだろう。ここで安心感を指摘するのは、子どもたちの後には保護者がいるということを理解しなければならないからである。

ところで箏は決して簡単に弾ける楽器ではないと思われるが、川村先生の優しくて丁寧な指導があり、子どもも成人も直ぐに上達し、正直に言ってその早さに驚いた。

2度目の調査時は、およそ30人の子どもたちの参加による管楽器体験であった。この日もヤマハの西川さんが楽しく丁寧に指導されており、子どもたちの心に入り込んでいたように感じた。川村先生や西川さんのプレゼンテーションに学ぶことが多い。

全体を通しての報告であるが、私の調査時の2回とも貴重な楽器体験となった。箏は普段に目することが少ない貴重な楽器であるし、管楽器は講師がとてつもないほどの高価な楽器が並べられており、子どもにとっては体験できないような教室であったように思われる。本物体験であり、こうした楽器の音は他の楽器に比べて少し違うのではないかと感じた。一方で、楽器の貸し出しや運搬、管理上のご苦労を知ることでもあった。

仲間意識の形成という点では、練習時の助け合いも見られ、子ども同士の工夫をみる事が出来て良かったと思っている。この事業の趣旨がきちんと果たされているということである。

また当該地域(会場の東成区だけではないが)が大阪市内という人口密集地域の中心地にあり、親の価値観もさまざまであるところから、コミュニティ形成が難しい地域である。その意味で、こうした事業を実施することは趣旨に合うものであるが、実際の事業においては参加者が十分に満足して帰る姿を見ており、心配が杞憂に終わるところか、むしろ成功に持って行ったという気がする。ネットワーク大阪の指導者や関係者のご尽力の結果であると思われる。

私が調査した日において感じた課題としては、異年齢交流がもう少し明確なコンセプトで行われても良かったのではないかと、地域の特性の活用にもう少しの工夫があっても良かったのではないかとこの2点があげられる。今後の課題として捉えて欲しい。こうした課題が残るものの大勢の関係者の協力のもと、「人のつながり」を十分に感じさせる事業運営であったことは事実である。今後の発展に期待したい。

③ 保護者、教員等からの感想や意見(36名)

(i) モデル事業の継続については、32名が「とてもそう思う」、4名が「そう思う」で、全員が継続を希望した。

(ii) モデル事業に関する自由記述より

- ・「人が少なくもったいないと思いました。」
- ・「家に楽器がないので、触れられてよかったです。」
- ・「もっと多くの人にPRをしたらいいと思います。」
- ・「子どもたちが日本古来の音楽を体験できてよかったですと思います。」
- ・「先生の演奏に感動しました。」
- ・「回数をもう少しふやしてほしい。」
- ・「本物の楽器や音色にふれられてよかったですと思います。」
- ・「親子どもども楽しい思いをさせていただきました。」
- ・「こういう機会をたくさん作ってほしいです。」
- ・「楽器の楽しさや難しさがよくわかり、大変ためになりました。ずっと続けてください。」
- ・「小さい子どもが預けられるのもっとよかったです。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見(59名)

(i) 「楽しかったですか」という質問には、47名が「とても楽しかった」、12名が「楽しかった」と回答している。

(ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、29名が「とてもやってみたい」、18名が「やってみたい」、1名が「あまりやりたくない」と回答している。(無回答1名)

(iii) 自由記述より

- ・「みんなといっしょにえんそうして楽しかった。」(小5)
- ・「いろんなきよくをえんそうしてたのしかった」(小5)
- ・「琴のひきかたなどのコツがつかめてうまくひけたし、とても楽しめました。」(小6)
- ・「はじめはふかれんかったけど、と中からふけてたのしかったです。」(小2)
- ・「たのしかった。むずかしかった。つかれけどたのしかった。」(小5)
- ・「家でできないことができて、楽器がさわられてよかった。」(小3)
- ・「こんなに高度な演奏が体験できるとは思いませんでした。たいへん楽しかったでう。先生方のすばらしい演奏に酔わせていただきました。」(高校生以上)
- ・「楽器をえんそうするのは、思ったよりすごい力があるからびっくりした。」(小5)
- ・「とても楽しかった。中学生になったら『吹奏楽部』に入りたい。太鼓も楽器に入れてほしい。」(小5)
- ・「できたらうれしくて、また何かをやってみたいです!」(小2)
- ・「今日はあまり音がでなくてくやしかったけど、またやりたい。」(小3)
- ・「練習して前より上手にふけるようになって、とても楽しかったです。」(小4)
- ・「月に2回ほどにがっきができるようにしてほしい。」(小2)

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	京都市教育委員会					
教室名	京都おんがくっ子塾					
実施場所	岡崎コミュニティセンター					
実施回数	6回					
講師等	講師数	4人		謝金単価	3,500円	
	安全管理員数	2人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	小3~6年生	幼児参加	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	子どもの数	6~8人
参加者の募集方法	会場近くの小学校(錦林・第3錦林・第4錦林・新洞・白川・北白川)の公立小学校6校の3~6年生全員にチラシ配布と私立文京短大付属小学校にポスター添付依頼した。					
主な活動内容 (実施回毎に)	<p>第1回: 洋楽リズム指導・ボディーパーカッション。リズム模倣~楽器を使って(タンバリン・カスタネット・ウッドブロック・アゴゴ・カバサ・ギロ・ビブラスラップ・マラカス・クラベス・カウベル等)。・ブームワッカーで、キラキラ星を演奏。箏演奏指導:楽器の簡単な説明→さわってみよう→「練習帖」A 歌:「さくら」「丸竹夷」</p> <p>第2回: 手遊び(「こすれこすれ」)・ストロー笛で「しあわせなら手をたたこう」・リズム「ポニョ」・演奏歌:「さくら」⇒箏演奏「練習帖」ABC「さくら」最後まで</p> <p>第3回: クリスマスなので「赤鼻のトナカイ」をミュージックベルで演奏。リズム「ポニョ」。はじめてトーンチャイムでの演奏。歌:京の通り名「丸竹夷」「寺御幸」箏:「練習帖」「さくら」を伴奏君と共に演奏。</p> <p>第4回: クラシックを背景に絵本の読み聞かせ。リズム「ポニョ」楽器(ブームワッカー・ミュージックベル・トーンチャイム)演奏「聖者の行進」歌:京の通り名「丸竹夷」「寺御幸」箏演奏:「練習帖」「さくら」を伴奏君と共に、「丸竹夷」</p> <p>第5回: リズム遊び(8文音符の位置は?)、「ポニョ」「聖者の行進」歌:京の通り名「丸竹夷」「寺御幸」箏演奏:「練習帖」「さくら」を伴奏君と共に、「丸竹夷」</p> <p>第6回: 14:00~ひと通りのリハーサル 14:35~プログラム終了後、感想を聞いたり、手作り笛で遊んだり好評だった。</p>					
計画した活動内容の実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】 会場が駐車場・駐輪場がないのが原因か応募者が予想に反して少なかったのが、何よりの痛恨事だった。</p> <p>【予定どおり実施できなかった点とその要因】 安全管理員として大学や高校の音楽クラブ員をお願いして世代間交流をはかりたかったが、実現に至らなかった。コラボレーション曲を演奏したかったが、生徒数が少ないのと回数の少なさもあったのか実行できず箏演奏は伴奏君と共に演奏することとなった。</p>					
活動プロセスでの工夫・苦勞	<p>【工夫した点】 洋楽の講師の得意分野を最初の時間に設定し、生徒の緊張を解きリラックスできるようにした。</p> <p>【苦勞した点】 生徒はなかなかうちとけた雰囲気にならず、講師がテンションをあげて接しなければならなかった。(ツカレタ)</p>					

<p>目ざす効果・成果が得られたか</p>	<p>【評価できる効果・成果】 見慣れないリズム楽器、小物楽器、箏には目を輝かせて接してくれて演奏に前向きにむかっていた。また京のわらべ歌は通り名の「丸竹夷」「寺御幸」の2曲だけだったがうれしそうに歌ってくれた。</p> <p>【苦勞した点】 人数があったら京のわらべ歌「京の大仏っあん」で仲間の声を覚えて遊び、お互いどうし洋楽と邦楽の融合をはかりたく、お互いの連携がさらに必要かもしれない。</p>
<p>来年度以降の取り組みについての課題</p>	<p>【内容・運営面から】 時間不足もあってなかなか連携ができていないので、以後は積極的に時間を見つけて努力したい。(最終回の子ミニコンサートのチラシは区役所に市の伝言板に張るべくお願い。)京都市の土曜塾に申請するなどの宣伝ももっと必要かもしれない。</p>



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
<p>i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>自分たちの住んでいる町の通り名のうたを歌い演奏することで、昔の親心(子供が迷わないように作られ、歌われたと言われていた)からの京都のわらべ歌を知る。また京都の道が縦と横にきちんと碁盤の目になっていることも知る。(お年寄りも参加して頂きそれを肌身で知ってほしいと願ったが、叶わなかった)</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
<p>ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>洋楽では学校で目にする事のない楽器(ウッドブロック・アゴゴ・カバサ・ギロ・ビブラスラップ・マラカス・クラベス・カウベル等)でリズム遊びを通して世界にさまざまな楽器があることを実感させた。また「聖者の行進」演奏ではブームワッカー・ミュージックベル・トーンチャイムの3種の演奏も普段出来ない経験だったと思う。箏演奏も思いのほかの上達でその思いの深さが伝わってきた。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>この点に関しては参加人数が少なかったため、予定のことはできなかった。</p> <p>【コメント】参加人数の少なさが達成できなかった何よりの理由でした。残念なことです。</p>	<p>目的は「あまり達成できなかった」</p>

<p>iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>教室に入る時は指導員は大きな声で「こんにちは!」と迎え、子供達も思わず返してくれた。 お稽古のはじまりは「背筋を伸ばして、お膝に手をおいて」と声掛けして「お願いします!」 終わりも同じ声掛け「ありがとうございました!」と元気にあいさつするようにした。 また、第1回目の終わりに後片付けのやり方も教えると、ずっと箏の柱を箱にしまい、箏をサックに入れて1階の玄関まで運ぶことをしてくれた。</p>	<p>目的は「かなり達成された」</p>
<p>v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>保護者も参加してもらったり、小さい弟さんも参加してもらったくらいだった。 【コメント】高校・大学の音楽クラブに声をかけたが、興味がないのか誰も参加してくれなかった。中高のクラブ指導をしていたらよかったなどとも思ったが、残念なことだった。</p>	<p>目的は「あまり達成できなかった」</p>
<p>vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>近くの7校の小学校、3年から6年生全員にチラシ配布をしたのに少数しか集まらなかったのは残念だった。チラシをみて音楽を通してのよい学習機会だと思ってもらえなかったのかとも思っている。 充実した内容であると自負しているが。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>

② 調査報告

報告者:立田慶裕

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通じて、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された

(vii) 総評 本事業では、京都のわらべ歌の伝承を通して、京都の町を知るとともに、そのリズムを口ずさみ、演奏することで、音楽の面白さを体験しようとする講座であった。調査者が参加した回では、読み聞かせを音楽と交えたり、多様な楽器を使ってリズム遊びをするプログラムもあり、本当に短い時間の間に面白い内容が組まれていた。
こうした講座がもっと長く体験できれば、邦楽や洋楽への親しみと実際的なスキルの学習はもっと向上できるものと思われる。

③ 保護者、教員等からの感想や意見（4名）

- (i) モデル事業の継続については、3名が「とてもそう思う」、1名が「そう思う」で、全員が継続を希望した。
- (ii) モデル事業に関する自由記述より
 - ・「教員は忙しいために、事前・事後の話し合い、タイムスケジュールの調整などの時間がなかった。」
 - ・「事業に参加する全員で、事前に計画表などを作れば、もとスムーズにいったと思います。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見（3名）

- (i) 「楽しかったですか」という質問には、3名が「とても楽しかった」と回答している。
- (ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、3名が「やってみたい」と回答している。
- (iii) 自由記述より
 - ・「リズム問題が全部正解でよかった!」（小5）
 - ・「お琴のげんが重たくてひくのが大変なのと、リズムの時に使うがっきはいろんながっきがあって楽しい」（小4）

事業の目的	「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む。					
窓口となる地方公共団体名	西宮市教育委員会 社会教育グループ					
教室名	「西宮市子ども音楽セミナー」～わいわいアンサンブル～					
実施場所	夙川西市民館					
実施回数	6回					
講師等	講師数	10人		謝金単価	1,300円	
	安全管理員数	4人		謝金単価	700円	
参加者(1回)	対象学年	小1～6年生	幼児参加	○有・無	子どもの数	37人
参加者の募集方法	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会より近隣小学校へチラシの全校配布を依頼する ・西宮市の市政ニュースに掲載する ・全市の公民館・市民館・児童館・図書館にチラシを設置する 					
主な活動内容 (実施回毎に)	<ul style="list-style-type: none"> ・2008年 12月7日 「オープニング プラスコンサート」 ↳ 連携 てんとうむし音楽隊 保護者鑑賞参加 ・2008年12月14日「英語で歌おう わいわい11」 ↳ 連携 ジャズボーカリスト北川 ・2008年12月21日 「ジャズでクリスマス わいわい!!」 ↳ 連携 ジャズトリオ(金谷・吹田・光田) 保護者参加 ・2009年1月18日「バイオリンで わいわい!!」 ↳ ヴァイオリン体験 ・2009年1月25日「パーカッションで わいわい!1」 ↳ 連携 パーカッション・ドラマー(光田) 聖者の行進の由来説明午前午後実施 ・2009年2月1日「ふれあいコンサートだよ わいわい!!」 ↳ 夙川青少年愛護協会主催のコンサート参加 午前ゲネプロ 午後本番 修了式 ↳ 連携 編曲・構成 常田 					
計画した活動内容の実施結果	<p>【予定どおり実施できた点とその要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回の事業は、地域の音楽資源を活用し、学生・ジャズプレイヤーと共に「聖者の行進」の演奏し地域コンサートに参加した。その事により児童には、より高い音楽環境の中で、音楽を体感、体験させることができ、充実感、達成感により笑顔の演奏となった。 ・毎回セミナーの会場は、保護者、連携講師、地域青少年愛護協会の人達も参加し、児童には、放課後児童の健全育成を図る、音楽による地域社会との結びつきになった。 <p>【予定どおり実施できなかった点とその要因】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施回数が6回されていたので、コンサート出場の為の練習時間が限られており、1月25日のセミナーは午前午後と行った。が指導員に連携講師の協力により快く実施できた。 ・2月1日のセミナーもふれあいコンサート参加により午前はゲネプロ・午後本番と1日かけのセミナーであったが、保護者の協力により実施した。 					

<p>活動プロセスでの 工夫・苦労</p>	<p>【工夫した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回は、西宮の「音楽のあるまち西宮」の文化振興ビジョンのもと、地域のジャズミュージシャンとの連携をはかった。 ・コンサート出場は、4歳～11歳と年齢差のある児童に、それぞれの楽器による役割の大切さを指導した。 ・身長の高さに高低があるため、舞台では37名すべての顔がみえるよう、構成を考えた。 <p>【苦労した点】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業は地域社会・音楽家との連携を、企画の段階からの参画により実施したので、会議開催も25回に及んだ。 ・指導内容の確認、編曲、舞台構成の連携団体との確認、指導者の連絡、事務的処理に多くの時間がかかった。
<p>目ざす効果・成果が 得られたか</p>	<p>【評価できる効果・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽による異年齢の共同作業を通して、仲間意識、協調性、自主性を養えた。 ・地域のプロのミュージシャンとの関りをつくり、ジャズの楽しさを体感させた。 ・ジャズミュージシャンと同じ舞台に立つことにより音楽による充足感を味わった。 ・ヴァイオリンの楽器体験により、未知の楽器への感心がたかまった。 ・ジャズの生演奏をきくことにより、豊かな心を育んだ。 ・コンサート参加は、心を開き笑顔の演奏となった。 <p>【得られなかった効果・成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンサート出場のため、6回のセミナーでは体験楽器の時間が充分取れなかった。
<p>来年度以降の 取り組みについての課題</p>	<p>【内容・運営面から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この種の事業は、地域に根ざすことが必要であり、継続が児童の放課後健全育成につながり、児童の地域社会でのつながりをもたらし、音楽文化の種まきになるものと思える。今回の地域の音楽グループ、音楽家との連携は、活動内容の充足をもたらし、新たな1歩と思われる。来年度もネットワーク兵庫において、事業が継続できることを、希求する。 <p>【市区町村との連携の観点から】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・西宮市の教育委員会、文化振興財団とは4年間の活動で友好的な支援を受けることができた。今後も事業継続にあたり、要望書を提出する。



①実施責任者へのアンケート

設 問	回 答	評 価
i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	文教地区であるという特性と、文化振興ビジョンに則り、専門性の高い音楽家並びに音楽グループとの連携の基、ジャズトリオやプラスアンサンブルとのコラボレーションで、児童とのアンサンブルでの音楽体験を共有した。地域のふれあいコンサートに参加を最終の舞台とし、毎回のセミナーをコンサートまでのプロセスと方向付け、同時に児童と地域社会との交流の場と位置づけ、保護者、児童、地域役員、講師、指導員で連携して本事業を行った。コンサートは、児童にとっても発表の機会を得ることで自己表現の場となった。児童は、聖者の行進をジャズプレイヤーやプラスアンサンブルとコラボレーションで演奏することで、本物の音楽を知り、地域の人達と音楽を楽しみ、笑顔の舞台を作り上げた。	目的は「ほぼ達成された」
ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	地域のプラスバンド・コンサートと楽器体験 ・地域のジャズボーカリストによる英語の歌の体験 ・地域のジャズトリオによるクリスマスコンサート鑑賞と参加 ・ヴァイオリンの体験 ・パーカッションの体験とプロジェクターによるジャズの由来の説明 ・地域のふれあいコンサートへの参加。連携講師の方々を招いた事によって、指導員だけで指導していた時に比べ、子供達は新しいジャンルの音楽を生で体験出来た良い機会となったと思う。	目的は「かなり達成された」
iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	各パート鍵盤ハーモニカ、タンバリン、シェーカー、トライアングル、ヴァイオリンの選択は児童に自主的にさせた。それにより異年齢によるグループが出来、異年齢の友達関係を作った。 ・各グループに自然にリーダーが存在し、仲間意識を高めた。 ・コンサートへの移動、楽屋での待機、昼食のお弁当も各グループで行った。 ・アンサンブルを演奏上で協調性を育むため、それぞれの役割の重要性を確認し、みんなで創る楽しみを児童にも保護者にも語った。(保護者への手紙より)「子供達は、少ない練習回数の中で曲・構成・動きを覚えました。本番で緊張のあまり間違えても、絶対にご家庭で小言をおっしゃらないようお願い致します。みんなで協力してひとつのアンサンブルを完成させたこと、その素晴らしい過程を思い、精一杯褒めてあげてください。アンサンブルの中では、どの子供も自分の役割を果たしています。少ない練習回数なのに、がんばってよく覚えたと思います。間違いを恐れずのびのび演奏する事を目指して、本番ステージに立ちます。 家族みんなで、客席で手拍子にて応援してください! この経験から、音楽っていいな!友達っていいな!人間っていいな!という気持ちにつながってほしい…と願いをこめての指導です。」	目的は「かなり達成された」
iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	・セミナー開始時 終了時の挨拶の励行 ・講師、指導員への感謝の挨拶 ・楽器を大切に。演奏時以外は楽器をならさない。 ・指導員の話をしっかり聴く。(私語は慎む) ・保護者との連絡のセミナー用ホルダーを作成。 配布物(保護者手紙、楽譜、受講票を大切に保管するよう習慣づけた。	目的は「ほぼ達成された」
v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかるために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。	・楽器選択を児童の自由選択に任せた。(学年を超えて各楽器にグループを形成) ・各楽器グループに連携の講師、社会人大学生にも入ってもらい、交流を図った。 ・保護者、にも地域での教育を説明し、どの児童へも言葉がけをお願いした。 ・指導員は、できる限り児童への言葉がけを、心がけた。 ・各連携グループ、保護者には毎回セミナー内容の確認の連絡をした。	目的は「かなり達成された」

<p>vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供するために、どのようなこと、またどのような工夫をしたか。</p>	<p>今回のセミナーの実施地区は、有名私学中学校が多く、中学受験を児童全体の3分の2以上が受験する、そんな中であって、児童は受験勉強に追い立てられ、音楽への関り、学習機会は年々減少している。</p> <p>本事業においては、児童との充実した放課後の時間を共有するために、音楽を通してより多くの人と関り、共同で音楽を作りあげる事を優先課題とした。指導並びに、舞台づくり、指導の参画への協力を、大学生、プロのミュージシャン、音楽愛好家、地域役員、楽器専門の講師、保護者などを広げ、協力をおねがいをした。その結果、コンサートでは皆の心が一つにつながり、セミナーに参画した人全員が充実した時間を過ごすことができた。このことは、取りも直さず、児童に豊かな心育む学習機会を提供できたと思われる。</p>	<p>目的は「ほぼ達成された」</p>
--	---	---------------------

② 調査報告 報告者:今西幸蔵

- (i) 音楽を通して、地域特有の産業や文化、歴史等に親しみ、地域を愛する心を育むことが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (ii) 様々な本物の音楽体験、楽器体験を通じて、音楽のすばらしさを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (iii) 合奏や合唱といった共同作業を通して、友達関係、仲間意識、協調性を育むことが達成できているか。 【評価】ほぼ達成された
- (iv) 子どもたちに基本的な挨拶や礼儀と、その大切さを学ばせることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (v) 異学年交流に加え、高校生や大人の参加によって、異世代交流をはかることが達成できているか。 【評価】かなり達成された
- (vi) 子どもの通学環境を踏まえながら、音楽を通して、豊かな心を育む学習機会を提供することが達成できているか。 【評価】かなり達成された

(vii) 総評 昨年も調査した地域の事業であるが、この1年間の発展が感じられる取組であった。子どもたちの成長ということもある上に、指導者や支援者に事業に取り組む余裕が見られ、そういったことから外部の支援者（今回の場合はゲストのアーティストなどの支援者）を迎えての共演を可能とするようなマネジメントができたのではないかと推察される。ますます磨かれた事業になっていることを肌で感じた。

具体的には、発達年齢に応じて演奏できる楽器を手に行っている子どもたちが、豊かな選曲の中で、みんなで合奏することの楽しさを感じたのではないと思われる。たとえば幼稚園児などは、簡単な打楽器であるシェーカーをとおしてリズム感がしっかりと身につくような教育が施されていた。実に楽しそうに振っていたし、手拍子や足踏みならしも加わって、耳、目、身体全体で音楽をとらえることができたのではないかと考える。

成人との共演ということで、管楽器やジャズバンドなどが加わっての演奏に重みが出ただけでなく、子どもたちは端でそうした楽器演奏を聞くという貴重な体験があった。

また指導者、スタッフや成人の共演者の気遣いもあって、子どもたちが活動しやすい雰囲気も形成されており、異年齢交流というものを越えた一体感が醸成されていたことも特筆されるべきであろう。

文化性が極めて高い地域であるだけに、こうした事業を支援しようとする機運がある点は他地域に比較して有利であると思われるし、そうした地域の期待に十分に適う実践でもあったと思われる。

2回の調査において、子どもたちの行動を観察していたが、基本的な挨拶や礼儀に対するしつけが行き届いていたと思った。親や家庭は勿論のこと、音楽教室での通学時において丁寧に指導されているのであろう。

個性が強そうな子どもたちが多くいるように感じたが、今後は、こうした子どもたちが自発的に相互協力して、参加していくような工夫が必要かも知れない。そのためにはリーダー的要素の強い子どもを育てることが課題となるのであろう。

本番の発表会では、カラーバンダナを活用した取組の面白さや、子どもが喜ぶニコちゃんマークの利用など、これまでの実践の反省に立った工夫と創造が見事に発揮され、大勢の観客からの拍手があったことを書き加えたい。そうであるがゆえに舞台が狭かった点が残念でした。

③ 保護者、教員等からの感想や意見(32名)

- (i) モデル事業の継続については、26名が「とてもそう思う」、6名が「そう思う」で、全員が継続を希望した。
- (ii) モデル事業に関する自由記述より
- ・「素晴らしいです。感動しました。」
 - ・「ジャズやブラス等、実際に活躍されている方々と一緒に演奏までできて、子どもにとってとても貴重で、素晴らしい経験になったと思います。マナーについても指導して下さったこと、音楽の楽しさを伝えてくださったこと、とても感謝しています。」
 - ・「色々な楽器と出遭うことができたり、学校以外で楽しく歌ったり、とても貴重な時間だったと思います。」
 - ・「一度だけの発表でなく、もう少し発表の場を作ってほしい。」
 - ・「今、安全に子どもを遊ばせる場所がなくなっているのも、このようなプランはとてもありがたい。」
 - ・「色々な音楽体験がいつもとても楽しいようです。ひとつのことを追求するコースもあっていいかなと思います。その次のコースは、さまざまな音楽体験とか、交互にできるといいなあと思いました。また次回も参加したいです。ドラムやギターにもとても興味を持ちました。やってみたいと、すごく行っていました。」
 - ・「今の子どもたちは習い事を多くしている反面、時間的に余裕がありません。音楽(楽器)を習いたい、または習わせたくても、毎日の自宅での練習時間がなかなかとれなかったり、また金銭的なことで習えない場合もあります。今回の事業は、このような問題がなくてとても良い事業だと思います。より多くの子どもたちに今回のような事業に参加できる機会を是非つくっていただきたいと感じました。子ども非常に楽しく音楽にふれることができたようです。」
 - ・「とても楽しい企画ばかりでした。」

④ 参加した子どもたちからの感想や意見(35名)

- (i) 「楽しかったですか」という質問には、28名が「とても楽しかった」、7名が「楽しかった」と回答している。
- (ii) 「こんどもやってみたいですか」という質問には、25名が「とてもやってみたい」、8名が「やってみたい」、2名が「あまりやりたくない」と回答している。
- (iii) 自由記述より
- ・「ここにきたらいろんな子と友だちになれるので、もっとほかの人にせんでんして、もっとたくさんの方がくるようにしたいと思います。」(小3)
 - ・「つぎはダンスやおどりもやってみたいです!!!」(小1)
 - ・「わたしはコンサートに出るときと、とてもドキドキしたけれど、れんしゅうするのがとても楽しかったので、少しほっとしました。がっきをひいたりふいたりするとき、むずかしかったです。」(小2)
 - ・「みんなで歌やがっそうができて、とても楽しかったです。またヴァイオリンにもさわられてうれしかったです。音楽セミナーに行けてよかったです。またいつかできたらいいです。」(小4)
 - ・「わたしはコンサートがはじめてなので、とてもドキドキしていました。でも毎週、月曜日に行っていると、ドキドキはなくなり、楽しくなってきました。今まで練習してきて思ったことは、先生がやさしくて、わかりやすく教えてくれるということです。」(小3)
 - ・「がっきで聖者の行進をひくだけでなく、歩いておもしろくできたことがよかったです。練習が短いので、もっと長いことやってほしかったです。」(小4)
 - ・「今の楽器をもっと増やしてほしい!ピアノとかを自分でやってみたい。」(小3)

4. 総 評

平成20年度の放課後活動支援モデル事業では、9つの事業が本財団が主催する生涯学習音楽指導員養成講座を修了したA級指導員によって実施された。すべての事業において、「地域特性を活かした音楽学習による放課後活動プログラム」の提供により、より効果的な体験の場・交流の場を作り出すモデル事業の企画実施を通して、子どもたちの豊かな心と、地域を愛する心を育む、という事業の目標を達成することができた。

今回の調査では、実施責任者だけでなく、保護者や管理者、そして事業に参加した児童・生徒に対してもアンケート調査を実施し、ステークホルダーから有益な示唆を得ることができた。多くの保護者や参加した児童・生徒が、音楽の楽しさを体験することができたという喜びの声を聞くことができ、同時に、継続を望む人たちの熱い気持ちを感じることができた。また実施期間が短いという指摘もあり、今後、施策として実施していく場合には、ある程度の継続性をもって実施や運営ができるように、予算面での措置が必要であることも明らかになった。

生涯学習音楽指導員の努力もあって、行政とのつながりは太いパイプで結ばれつつあるが、まだまだ指導員の活動を理解し、彼らの能力を施策の実施に活用しようとする意識は乏しいと言わざるをえない。今後、文部科学省等の国の機関が、都道府県や市区町村の担当部署への周知を行うことも急務であるように思われる。

以上

平成20年度放課後活動支援モデル事業調査委員長
久保田慶一

平成20年度放課後活動支援モデル事業 調査委員会(50音順)

今西幸蔵 (天理大学教授)

久保田慶一 (東京学芸大学教授) *

澤崎眞彦 (東京学芸大学教授)

立田慶裕 (国立教育政策研究所 総括研究官)

八木正一 (埼玉大学教授)

* 委員長



財團法人 音樂文化創造